

埼玉トヨペット Green Brave



2019 RACE REPORT

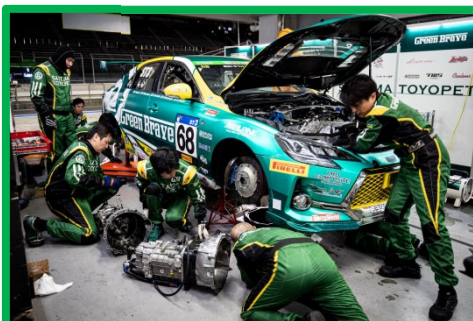
【#68 埼玉トヨペット Green Brave GR SPORT マークX】

2019年5月31日(金)~6月2日(日)

ピレリスーパー耐久シリーズ 2019

第3戦 富士 SUPER TEC 24時間レース

富士スピードウェイ(静岡県小山町)



決勝結果 (ST-3 クラス)

#68 埼玉トヨペット Green Brave
GR SPORT マークX

(服部尚貴/脇阪薫一/吉田広樹
/平沼貴之/番場 琢)

決勝：4位

(662周、24時間02分39秒072)

予選：1位

(18番グリッド)

■ ■ ■ 序盤のミッショントラブルを克服し、値千金の4位チェッカー ■ ■ ■

予選日(金曜日)の天候は曇り。決勝のグリッド順はA、B両ドライバーの合算タイムにより決定する。Aドライバー、服部選手は1分50秒959、Bドライバー、脇阪選手は1分51秒485をマークし、どちらも堂々のトップタイム。2年連続の予選1位を獲得した。他の選手の結果は吉田選手が3位、平沼選手が6位、番場選手が2位。昨年の最終戦以来の実戦復帰となる平沼選手や、1年ぶりにマークXのハンドルを握る番場選手も無事に走行を終えている。

決勝スタート日(土曜日)の天候は曇り。15時、1万6700人のファンが見守る中、24時間レースがスタート。服部選手はインから1コーナーをクリアするも、コカ・コーラコーナーで他車のスピンに巻き込まれそうになり、減速。オープニングラップを5位で通過する。しかし、服部選手はあせることなく1台ずつオーバーテイク。29周目に2位まで上がる。服部選手は43周目にピットイン。給油のみを行い、番場選手に交代。4位でコースに復帰した番場選手は、ライバルのピットインもあり48周目にトップへ。しかし、タイヤの摩耗が進み、番場選手は徐々に後退。74周目に2位、76周目に3位となる。番場選手は90周目にピットイン。給油とタイヤ交換を行い、平沼選手に交代する。3位でコースに復帰した平沼選手は1分55~56秒台のペースで周回。前の#38 レクサス RC350 にプレッシャーをかけながら走行し、日没を迎える。138周目に平沼選手がピットイン。吉田選手に交代し、給油のみでピットを離れる。吉田選手は140周目に#38 レクサス RC350 を抜き2位へ。トップの#34 レクサス RC350 との距離も縮まっており、首位奪回に期待が高まる。しかし、20時を過ぎた152周目、吉田選手が緊急ピットイン。ミッションの異常を訴えており、スタッフはすぐにミッション交換を始める。ピットは戦場のような慌ただしさとなり、20時半を過ぎた頃には夜勤班のスタッフも加わる。わずか2時間足らずでブレーキローター交換を含む一連の作業を終え(義務付けのメンテナンスタイムも消化)、脇阪選手がコックピットに収まりコースに復帰。順位はトップから59周差、5位から6周差の6位。優勝は難しい状況だが、レースはまだ序盤だ。脇阪選手は給油とバンパー修復のための2回のピットストップを挟み、全75周を走行。日付はすでに変わっている。227周目から服部選手が2回目のドライブ。服部選手は長い間ピットに入っていた#15 フェアレディZ を抜き5位に。さらに服部選手から交代した吉田選手も順調に走行し、夜明けまでに#14 フェアレディZ の前、4位に上がる。6時過ぎ、401周目から平沼選手がドライブ。3位の#38 レクサス RC350、5位の#15 フェアレディZ とは大差がついているが、平沼選手は集中力を切らさず走行。その後、番場、脇阪、吉田、服部と約1時間半ずつ走行し、13時30分過ぎ、622周目にアンカー平沼選手へ。クルマはセンサーの不良やリアバンパーの損傷など、さまざまなトラブルを抱えており、満身創痍の状態。そのためスタッフが最後のチェックを慎重に行い、平沼選手をコースに送り出す。平沼選手はクルマを労わりながら40周を走行し、4位でチェッカー。目標の優勝は達成できなかったものの、ミッションを2時間で交換していなければ、6位に終わっていた可能性は非常に高い。チーム全員で勝ち取った値千金の4位だ。

DRIVERS VOICE

今回起きたトラブルの量を考えたら、勝てるレースではなかったですね。マラソンと一緒に、脱落したら生き残れません。4位でポイントは獲れたので、先のことを考えるとまだ良かったのでは。本当は勝ってもっとポイントを獲得したかったのですが、まだ、可能性はあると思います。(服部尚貴選手)

まだ、シーズンの途中ですが、悪いところが全部出たことを祈っています。シリーズポイントを考えたら最悪の状況ではないのが、不幸中の幸いです。メカニックとエンジニアにとって、良い経験になったと思いますので、これを活かしてチャンピオンを獲得するように頑張ります。(脇阪薫一選手)

今まで出ていなかったトラブルがいろいろ出てしまい、みんなでだましまし乗ってチェッカーまで運ぶことができました。連覇を狙っていたので、さみしいような気がしますが、メカニックもあきらめずにミッション交換をやってくれ、走れる状態にしてくれました。感謝しています。(吉田広樹選手)

最後の最後まで何があるかわからないので、ぼくらはできる限りのことをやるだけでした。クルマが壊れてしまったら勝負権がなくなるというのは本当にその通りですね。店舗メカニックの頼もしい、一生懸命な姿を見て、彼らのためにも頑張らなければならないと強く思いました。(平沼貴之選手)

声をかけてくれた平沼さんにも感謝ですし、受け入れてくれたスタッフのみんなにも感謝しています。結果として表彰台に立てなかったのは残念ですが、1年ぶりにこのチームで24時間戦わせてもらい、メカニックの技術とか意識とかものすごくレベルが上がったなと思えました。(番場 琢選手)



MECHANIC VOICE

給油を担当しました。ガソリンを扱うので細心の注意を払う必要がありますが、早さと正確さを求められているので、難しかったです。S 耐はワンメイクと異なり、6人で1台なので、役割分担をはっきりさせたいと効率が悪くなります。チームとして動くということが勉強になりました。(東松山支店・田中敏夫)

(NEXT RACE)

第4戦 7月20日~21日 オートポリス (大分県日田市)

ST-3 クラス決勝結果

順位	チーム	周回数
1位	TECHNO FIRST RC350(レクサス RC350)	720周
2位	5ZIGEN ADVICS RC350 TWS TRACY(レクサス RC350)	709周
3位	ADVICS muta racing RC350TWS(レクサス RC350)	675周
4位	埼玉トヨペット Green Brave GR SPORT マークX(トヨタ マークX)	662周
5位	岡部自動車 Z34(ニッサン フェアレディZ)	657周
6位	HIRIX☆YAIMA☆Z34(ニッサン フェアレディZ)	650周

天候:曇り 路面:ドライ ※トップ6 まで(出走7台)

ST-3 クラスポイントランキング

順位	車番	チーム	ポイント
1位	38	TRACY SPORTS	72.5
2位	34	TECHNO FIRST	64
3位	68	埼玉トヨペット Green Brave	60
4位	39	TRACY SPORTS	56
5位	14	OKABEJIDOSHA motorsport	43
6位	62	Le Beausset Motorsports	42

※6位まで(7台中)、完走ポイントを含む

埼玉トヨペット Green Brave PARTNERS 協賛各社



赤城車体工業株式会社



株式会社アシスト・ワン



アルパインマーケティング株式会社



EMG ルブリカンツ合同会社



株式会社 FM NACK5



大宮グリーン社・大進カーエアコン



株式会社岡崎巧芸



株式会社カーグラス・JP



株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



埼玉群スリーボンド株式会社



埼玉トヨペット陸送株式会社



株式会社テレビ埼玉



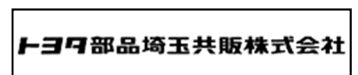
株式会社デンソーセールス



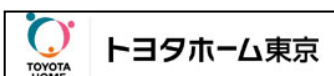
株式会社トイファクトリー
インターナショナル



株式会社トヨタカスタマイジング
& ディベロップメント



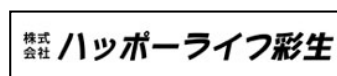
トヨタ部品埼玉共販株式会社



トヨタホーム東京株式会社



株式会社トヨタレンタリース新埼玉



株式会社ハッピーライフ彩生



富士ゼロックス埼玉株式会社



株式会社プロモーション



丸和工業株式会社

※50音順